塩野義製薬株式会社　御中

ケニア共和国
Mother to Mother プロジェクト
第１年次　完了報告書

2016 年 12 月 12 日

特定非営利活動法人
ワールド・ビジョン・ジャパン
〒164-0012　東京都中野区本町 1－32－2　ハーモニータワー3F
TEL: 03-5334-5350　FAX: 03-5334-5359
URL: http://www.worldvision.jp

御礼

貴社によりご支援をいただきました、ケニア共和国におけるMother to Motherプロジェクトの第1年次が完了しましたので、ここに感謝とともにご報告致します。

支援地域の人々からは「Elangata Enterit診療所外来棟の完成により、医療サービスを受けられるようになり、学校も休まなくて済むようになる。」、「診療所で出産する方が安全ということを知り、診療所で安心して出産しました。」などという喜びの声があがっております。貴社のご支援は、人々に大きな喜びと希望をもたらしています。

貴社の役員や社員の皆様、そして全ての関係者の皆様も、その喜びと希望を共に分かち合っていただければ幸いです。

このご支援に心から感謝し、第2年次以降も引き続き、温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人
ワールド・ビジョン・ジャパン

１．支援事業概要

事業名：	Mother to Mother プロジェクト
事業地：	ケニア共和国　ナロク県　オスプコ郡 イララマタク地域開発プログラム事業地内
事業期間：	2015 年 10 月～2016 年 9 月（事業 1 年目）
対象人口：	14,612 人（うち 5 歳未満児 2,440 人と出産年齢の女性 3,507 人を含む）
年間予算：	2,000 万円（啓発教育費及び地域開発援助事業管理費等 18%を含む）
活動目的：	ナロク県オスプコ郡の保健医療施設レベルの強化、母子保健サービスの向上、及び住民への啓発と意識・行動変容を通して、対象地域の子どもと妊産婦の健康状態の改善を目指します。

２．支援事業の背景と目的

本事業の活動地域であるナロク県オスプコ郡は、国内でも貧困度が非常に高い地域の一つです。雄大なアフリカの自然や野生動物を目にすることができる一方、電気や水道といった社会インフラは整っておらず、人々は厳しい環境で生活をしています。学校や診療所の数はまばらで、通学のために毎日片道10キロを往復する子どもや、基本的な治療を受けるために体調不良の中、診療所まで遠距離を歩く人々の姿は珍しくありません。また、住民の90%以上を遊牧民のマサイ族が占め、伝統的風習の影響が強く残る地域でもあります。

活動地域であるナロク県オスプコ郡の母子保健に関する各種指標（妊婦の産前健診の利用率、保健施設での出産率、低体重率など）は、ほとんどの項目でケニア国全体の平均値を下回っています。この背景には、保健施設の数と提供されるサービスの量・質が不十分であること、村落保健員と保健施設の協力体制が整っていないこと、村落保健員および保健施設スタッフの能力不足、地域住民の保健や栄養に関する絶対的な知識不足、ジェンダー不平等の問題（保健サービスを利用するかどうか決めるのは女性ではなく男性であることが多い）などが横たわっています。本事業では、これら一つ一つの課題に対して、母子保健サービスの強化と人材育成、政策決定者に働きかけるアドボカシー活動に取り組み、救える母子の命を救うことを目指します。

● 活動目的：

ナロク県オスプコ郡の保健医療施設レベルの強化、母子保健サービスの向上、及び住民への啓発と意識・行動変容を通して、対象地域の子どもと妊産婦の健康状態の改善を目指します。

● 活動内容

1） <u>診療所の建設</u>

Elangata Enterit地区にある既存の診療所の敷地内に、毎年、下記施設を建設予定です。全ての施設が完成した際には、現在の診療所よりも一段階高度なヘルスセンター規模となり、将来的には政府からヘルスセンターとしての認可を受ける予定です。

1年目： 臨床検査室、薬局、外来用診察室（2床）、母子保健室（2床）、待合室、トイレ
2年目： 産科棟（8床）、台所、スタッフ宿舎（3人用）、貯水タンク1基（50m³）、機材の調達と設置
3年目： 一般病棟（12床）、貯水タンク1基（50m³）、機材の調達と設置
※1年目と2年目（新しい機材が整う前）は、既存のクリニックにある機材を使用します。
※外来用診察室は当初1床（1部屋）のみを予定していましたが、ケニア政府の基準に則り設計を変更した際に、2床（2部屋）に変更となりました。費用は予算額内で実施しました。

2） ケニア保健省と共同で巡回診療を実施

対象地域内の村々への巡回診療（基本的な医薬品、予防接種、駆虫、栄養補助剤などの提供）を行います。

3） 形成的調査

地域の妊産婦を訪問し、保健サービス利用にあたって知識レベルと具体的に何が障壁になっているのか、またその解決策を探るための調査を実施します。

4） コミュニティレベルでのアドボカシー活動

アドボカシー・グループを 3 つ（各グループ 20 名）結成し、地域住民が保健に関して抱えている問題や、政府の取り組みと現実の間の乖離について声を上げ、本来住民が享受すべき保健サービスが満たされるようナロク県保健局に働きかける活動を行います。WVK（ワールド・ビジョン・ケニア）はグループの組織化と初期の活動立ち上げを支援し、その後、年に 3 回能力強化研修を実施します。アドボカシー・グループは月例会を持ちながら活動し、WVK はその過程でフォローアップを続けます。

３．支援事業内容および実績詳細

活動	計画	実績
1. 診療所の建設	診療所の建設: 臨床検査室、薬局、外来用診察室（1床）、母子保健室（2床）、待合室、トイレ の建設	診療所の建設: 臨床検査室、薬局、外来用診察室（2 床）、母子保健室（2 床）、待合室、トイレの建設 さらに、診療所の入り口また周囲に門とフェンスを設置しました。2016 年 11 月 8 日に開所式を行い、同日より本診療所での診察が開始しました。

活動	計画	実績
2. ケニア保健省と共同で巡回診療を実施	12 回	12 回 医療従事者が対象地域内の村々で巡回診療し、予防接種や駆虫、妊産婦診察、医薬品処方や栄養補助剤の配布を行いました。
3. 形成的調査	調査 1 回実施	調査 1 回実施 調査結果に基づき、行動変容を促すメッセージを用いて 8 回の啓発活動を行いました。
4. コミュニティレベルでのアドボカシー活動	アドボカシー・グループを 3 グループ（各グループ 20 名）結成	アドボカシー・グループを 3 グループ（各グループ 20 名）結成 グループの代表者に対して保健分野の政策やガイドラインに関する研修を行い、さらにグループ毎に 1 回能力強化研修を実施しました。アドボカシー・グループは政府に対して保健サービス向上の働きかけを行いました。また、住民への保健啓発活動も行いました。

1. 診療所の建設

本事業開始前には診療所建設地には小さなクリニック（診察室が 2 室）がありましたが、設備の不足やインフラ環境が整っておらず、保健サービスが十分に提供できていない状況でした。本事業では、より多くの保健サービスを提供できるように、外来診察室、母子保健室、薬局、臨床検査室を備えた診療所を新設しました（図 1）。2016 年 11 月 8 日の開所式をもって、本診療所での診察を外来診察室にて開始しました。第 2 年次には、更なる施設の拡充、設備・備品の整備、医療スタッフ数の増員等を行い、保健サービスを充実させることで、2 年次終了時点では政府からヘルスセンターとしての認可を受けられる予定です。

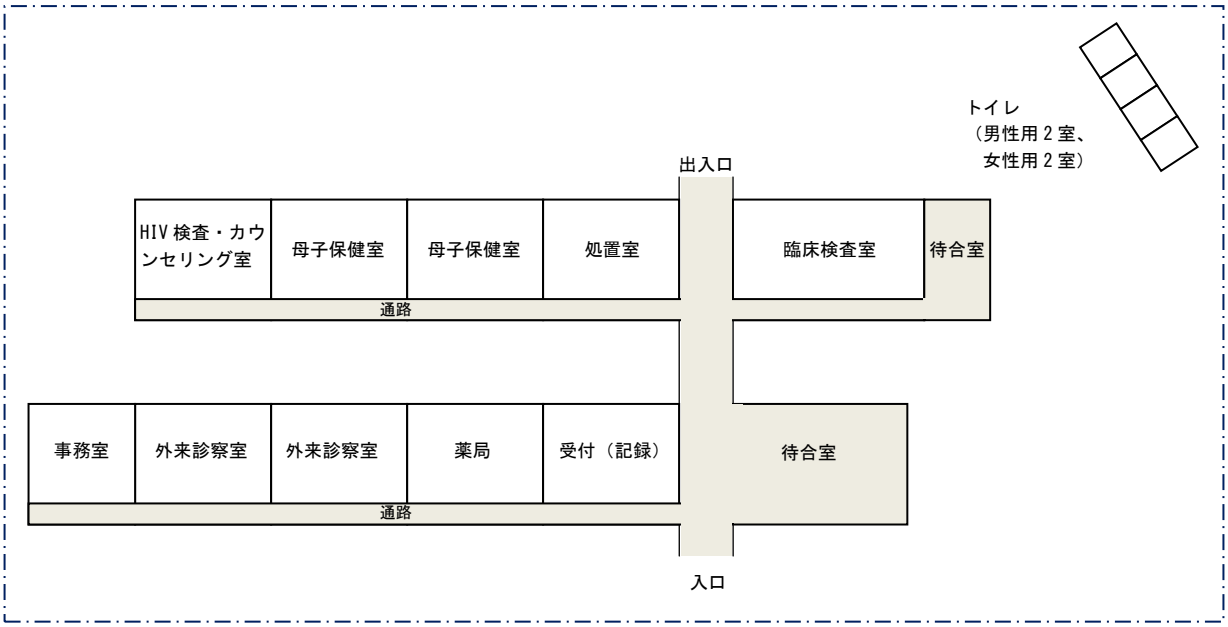


図 1. 第 1 年次に建設した診療所施設の見取り図

2. ケニア保健省と共同で巡回診療を実施

毎月 1 度ずつ、医療スタッフが各コミュニティ（3 地区）で巡回診療を行いました。ケニア保健省や Catholic Mission や Community Health Partner などの他団体からも医療スタッフの派遣や医薬品の提供などの協力を受け、予防接種（BCG、経口ポリオワクチン、三種混合、肺炎球菌ワクチン、ロタウイルスワクチン、麻疹・風疹ワクチン）、駆虫、妊産婦健診、医薬品の処方や栄養補助剤の配布などの医療サービスを提供しました。これにより、医療サービスを受けた妊産婦および授乳婦数は、2015 年はそれぞれ 340 人、1,644 人でしたが、2016 年には 469 人、1,945 人に増加しました。また、予防接種サービスを受けた 5 歳未満児も 1,940 人から 3,992 人に増加しました。巡回診療の実施により、多くの子どもが感染症のリスクから守られ、さらに栄養状態や成長のモニタリングも行われています。また、巡回診察時には、母子保健の健康教育も行い、産前・産後健診、栄養、HIV 検査、母子健康などに関する啓発を行い、毎月約 510 人が健康や子供の病気、栄養についての知識とスキルを身につけました。

3. 形成的調査

地域住民の母子保健サービスの利用率を高めるために、母子保健に関する行動（例：保健サービスの利用）について、「行動をとる者（Doer）」と「行動をとらない者（Non-Doer）」との認識の差は何か、具体的に何が障壁になっているのかを探るための調査を実施しました。本調査では、①産前健診、②下痢罹患の際の経口補水塩（ORS）および亜鉛の利用、③BCG 予防接種、④妊娠のタイミングとスペーシング（間隔を空けること）、⑤熟練助産者（医師、助産師、看護師等）の利用、⑥完全母乳育児の 6 つの行動について調査をしました（結果の詳細は第 1 年次月次報告⑤参照）。各行動に共通な課題として、地域住民にとって保健サービスがより身近で利用可

能なものになるように、保健施設、設備、医療スタッフ、サービス内容など包括的に保健システムの強化が早急に必要であることが明らかになりました。

調査の結果は、医療スタッフ、村落保健員、アドボカシー・グループ、教師や母親など地域住民に共有され、どのように行動変容メッセージを地域住民に伝えていくのか行動計画を立てました。巡回診療時やコミュニティ集会等を活用し、1,022 人（女性 324 人、男性 698 人）に調査を基にした行動変容を促す啓発メッセージを伝えることができました。

4. コミュニティレベルでのアドボカシー活動

Enkutoto 地区、Elangata Enterit 地区、および Mosiro 地区それぞれにおいて、アドボカシー・グループを 1 つずつ、合計 3 つ（各グループ 20 名）結成しました。各グループに対して保健省およびワールド・ビジョンにより能力強化研修を実施しました。各グループはそれぞれの地区にある保健施設の管理を行うコミュニティ保健委員会と協働して、コミュニティの保健の課題に取り組んでいます。グループの活動は、政府に働きかけて保健サービスの質を向上させる取り組みとコミュニティに働きかける啓発活動の 2 つがあります。全保健施設で医薬品不足が大きな課題となっていたため、政府に医薬品供給量の増加と重要性を訴えた結果、昨年と比べて保健省から必要量の医薬品がスムーズに届くようになりました。また、対象地域では携帯電話の電波のネットワークが届かないところが多くあり、現場で働くスタッフと地域住民や医療スタッフ、政府関係者との間での情報伝達に支障をきたしています。アドボカシー・グループは携帯電話会社（Safaricom）に働きかけて、ネットワークの拡充を求めてきました。2017 年には電波受信可能エリアの拡大が予定されています。さらに、妊産婦・授乳婦を対象に計 12 回の保健教育セッションを行い（延べ 5,120 人参加）、保健施設の母子保健サービスの利用率が向上するように、保健サービス受診の重要性等の啓発活動を行いました。

４．支援事業による効果

事業実施前と比べ、対象 3 地区において保健医療サービスを受けた妊産婦・授乳婦、また子どもの数は大きく増えました（表 1）。

表 1. 保健医療サービスを受けた人の数の 2015 年と 2016 年の比較

項目	2015 年	2016 年
妊産婦（18-49 歳）		
妊婦の産前健診（4 回以上）の受診者	66	118
専門技能者の介助による出産数	2	29
保健施設での分娩数	2	29
HIV カウンセリング・検査を受けた妊産婦数	167	469
5 歳未満児		
予防接種完遂児数	375	415
予防接種未完了児数（脱落等）	167	47
発育阻害数（stunting）	10	0
消耗症数（wasting）	5	3
低体重数（underweight）	14	0

※各指標の割合（%）および各死亡率（妊産婦、5 歳未満児、乳児、新生児）については、3 年次終了時点の最終評価の結果としてご報告させて頂きます。
※2015 年は 2014 年 10 月～2015 年 9 月、2016 年は 2015 年 10 月～2016 年 9 月のデータです。

マサイ族の慣習では家での分娩が一般的であるため、施設での分娩はほぼありませんでしたが、巡回診療やコミュニティ集会で専門技能者の介助による施設での分娩の安全性を伝えた結果、施設分娩数も少しずつですが増加しています。また、5 歳未満児の予防接種完遂児数も大幅に増え、全予防接種を完了できない子どもの数も減りました。これにより、より多くの子どもが感染症などの病気にかかる危険性を減らすことができました。巡回診療では栄養指導も行っており、発育阻害や低体重の子どもの報告例も減りました。

巡回診療で栄養不良と判断され、栄養補助食品を支給し、母親に栄養指導を実施。

栄養補助
栄養教育
（母親）

サポートを受け、順調に回復しました。

【お願い】
ご支援の成果をご報告するために、巡回診療時の際に撮影した上半身着衣なしの写真を掲載しております。子どもの保護の観点からこの報告書以外への転用・貴社外への共有はご遠慮ください

また、巡回診療では、その場で診察するだけでなく、重度の病気を発見し、適切な医療を受けられる施設へ紹介することも行っています。以下、Tasaru Laan さん（女性、9 カ月児の母親）の例です。

Tasaru さんとその家族。
右が Tasaru さん。Tasaru さんの夫（左）と子ども（生後 9 カ月）。

Tasaru さんは、本事業の巡回診療に来た際に鼻腔感染が見つかりました。感染は重度で、母乳をあげることも日常生活の活動にも影響しており、感染のために臭いもしていました。更なる診断と治療のために専門医の紹介を受けたところ、重度の副鼻腔炎と診断されました。手術を受け、無事に回復することができました。術後は痛みや臭いもすっかりなくなり、母乳もあげることができるようになりました。

Tasaru さんが専門医による手術を受けている様子。

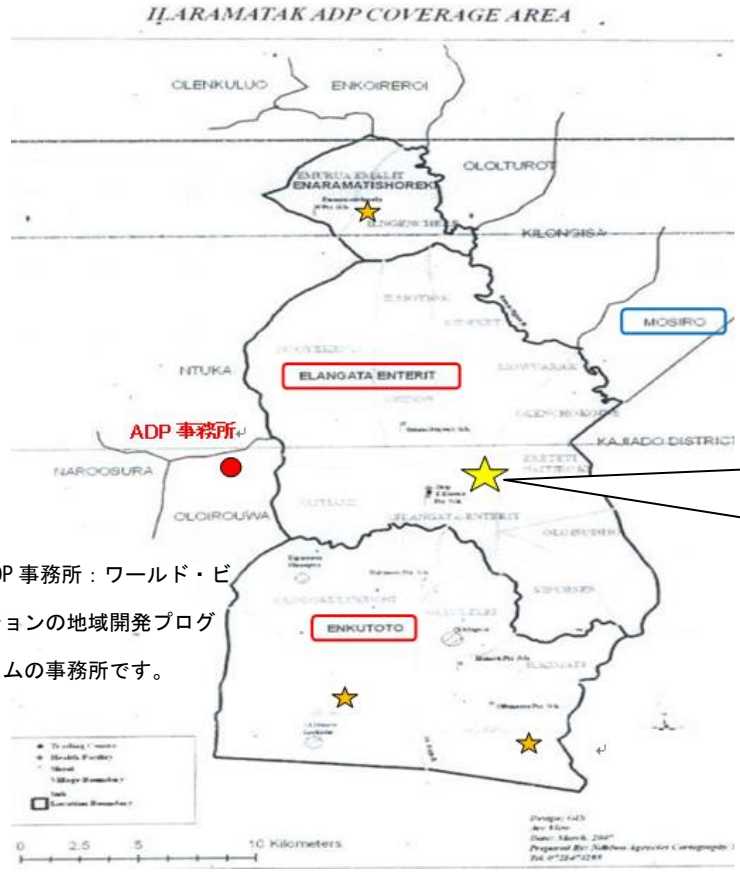
第 1 年次は、保健医療サービスの基盤整備行うと同時に、巡回型医療サービスの提供やコミュニティへの教育・啓発活動を通じ、より多くの村人に医療サービスを届けることができました。第 2 年次以降も、医療環境の整備や意識・行動変容を促す健康教育を拡充していきます。さらに、保健サービスの改善に住民自身が主体的に働きかけていけるよう、アドボカシー・グループや村落保健員のトレーニングを引き続き行います。地域の母親と子どもの命が失われることがなく、健康に生きていけるよう環境を整えていきます。

５．支援事業実施工程表

活動内容		2015 年			2016 年								
		10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
診療所の建設	予定												
	実績												
保健省との共同巡回診療	予定												
	実績												
形成的調査	予定												
	実績												
コミュニティレベルでのアドボカシー活動	予定												
	実績												
中間報告書の作成・提出	予定												
	実績												

【添付資料】

① 支援地地図



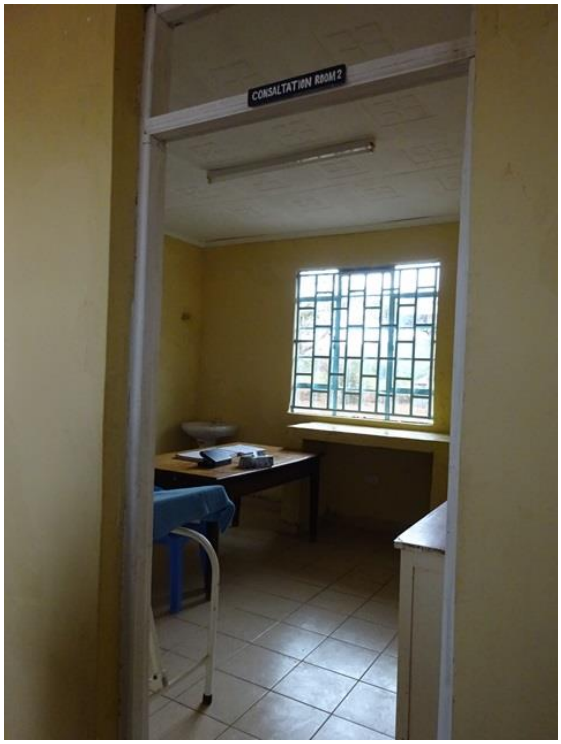
診療所の場所はエランガタ・エンテリット地区内、黄色の星の位置です。

ADP 事務所：ワールド・ビジョンの地域開発プログラムの事務所です。

② 支援事業写真

【診療所】

第１年次に建設した Elangata Enterit 診療所の外観



（右） 薬局の薬剤保管庫
政府から必要な薬剤を供給されています。

（左） 外来診察室
ベッド一台と身長・体重計、血圧計などの備品が設置されています。

【アドボカシー活動・啓発活動】

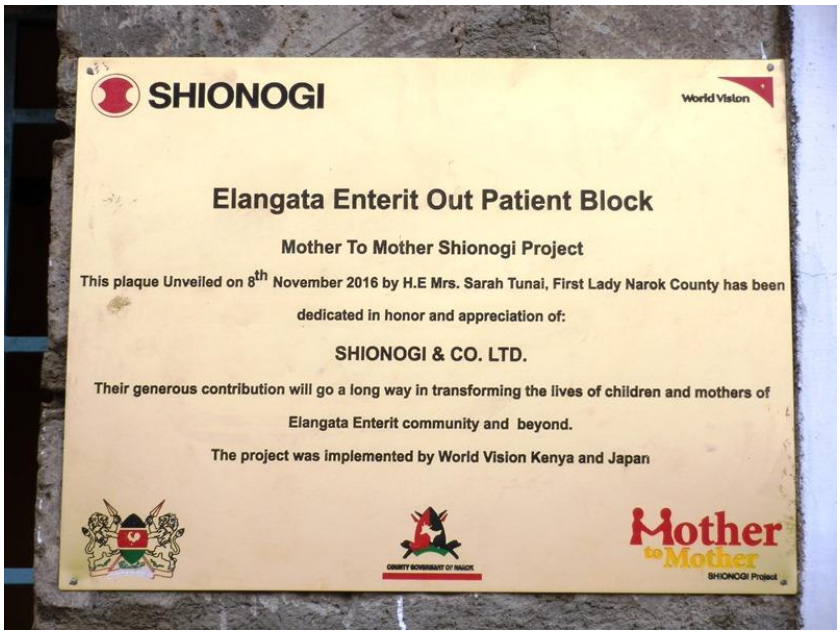
アドボカシー・グループの働きかけにより、各病院に医療サービスの内容を示す看板が掲げられました。これにより、住民がどのような医療サービスを受けられるのかがわかり、安心して施設に来ることができるようになりました。

保健省担当官とアドボカシー・グループにより、形成的調査の結果を基にした行動変容啓発活動を実施しました。このような内容の啓発活動はこれまでに実施されておらず、住民により伝わりやすく実践できるような形での啓発活動に努めています。

診療所開所式

2016 年 11 月 8 日に新しい診療所の開所式が盛大に行われました。多くの住民が集い、塩野義製薬の皆様を歌と踊りで歓迎し、診療所開設の喜びと感謝を伝えました。
また開所式は、医療サービスを受ける重要性を住民に啓発する機会にもなりました。
開所式にはケニアの複数のメディア取材も駆けつけ、テレビニュースでの放映もされるなど、ケニア全体にその様子が伝えられました。

住民から歌と踊りで歓迎を受けました



診療所に掲げられた看板

住民に対して、保健医療の重要性と今後の展望についてお話頂き、住民に希望を与えました

診療所入口の看板の前にて

【連絡先】
特定非営利活動法人　ワールド・ビジョン・ジャパン
〒164-0012　東京都中野区本町 1－32－2　ハーモニータワー3F
TEL: 03-5334-5350　FAX: 03-5334-5359
担当：堀切、谷村（マーケティング第 2 部ドナーエンゲージメント課）